

■ 日本危機管理学総研 20091219 議事録

日時：2009年12月19日（土）15:00-17:40

場所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

テーマ：「イランの防災について」

発表者：大久保信寛氏（SNS 国際防災支援センター理事長）

参加者：参加者 9人（発表者除く）

（財務コンサルタント、戦略コンサルタント、会社員、銀行員、学校教員、団体職員、フリージャーナリスト、行政書士・司法書士など）

●代表から開会挨拶、戦略研趣旨、今回ミーティング趣旨
→資料「戦略研概要」

●参加者近況報告

私立中学高校教員（生徒安全部長）。

今年はインフルがすごかった。

大人の中では知らないけど、子どもの中ではすごいことになっている。

1日60人がピークだった。

債権回収会社。

不良債権問題研究会を立ち上げた。

1月16日に住宅ローン危機について、

「住宅ローンの落とし穴」というテーマで会を開く。

マーケティングリサーチ会社。

最近伊豆でも地震があり、

日本の防災のヒントを求めて来た。

外食会社で経理。

5年前子供の防犯ワークショップに参画。

大学院で建築で子どもを守る研究を行っていた。

外食現場は戦場のよう。解決するためにコミュニケーション能力が必要。

事前に現場に行って、コミュニケーションを取っておくと、危機の際に対応しやすい。

危機に対応するには瞬発力が必要。

組織の瞬発力を高めるのがコミュニケーション。

瞬発性の高いコミュニケーションの為にはカリスマ性が必要。
有事の際のコミュニケーション能力のためにリーダーシップが必要。

重工会社で火力発電所の計画、メンテナンス。
平成6年までインドネシアで業務を行っていた。

司法書士・行政書士

大阪大の大竹文雄さんの話で「日本では失業率と犯罪認知件数は相関関係がある」。
今後、さらに失業率増えるから、犯罪も増えると予想している。

経営コンサル。
フリーアドレスが広まっている。
300人中60人しか職場にいないため、
職場の危機管理を考える必要がある。

戦略研運営委員。
消防団活動10年。

損害保険関連会社。
地震保険にかかわっている。

●発表「イランの防災について ? イランの文化に合った防災を考える ?」(大久保氏)

1. 近況報告

今年はインドネシアの活動が増加。
活動は3年前地震があったジョグジャカルタ。
今年はスマトラ沖で地震があった。
現在はインドネシアとイランで新しい事業を計画中。

2. 経歴

日本の専門商社に勤務、米国大学院留学後、
ピースウィンズジャパンに参加。
イラン南東部地震が発生し、即刻イランへ緊急支援チームの
一員として向かった。その後、赴任し、事業代表として復興支援を実施。

3. 本日の発表内容

『イランとイラン人に合った防災文化構築のためには？』

防災：気候風土とそこに住む人々の性質によって異なる。日本の考え方をそのまま持ち込めないという前提を理解しておくことが重要。

例えば、多くのイラン人は、他人と協力して仕事を行なうことが苦手。

また、多くのイラン人は先のことを考え、管理をすることが苦手。

⇒ イランとイラン人について知ることが大切

⇒ 過去の震災から学ぶ

4. イランの位置

西にイラク、トルコ

東にアフガニスタン、パキスタン

イランには麻薬街道がある。

アフガンでケシが栽培されイランを通過して欧州へ流通。

麻薬の輸送は命がけであり、イランの中でも西へ行けば行くほど麻薬の価格が高くなる。

麻薬専門の検問所もあり、命がけで麻薬を運んでいる。

東部では価格は安い為、麻薬が蔓延している。

中毒にはならないまでも、タバコのように吸っている。

日本のお酒の感覚。

5. イランの気候

テヘランの北部、東西に伸びる山脈より南の地域の気候は乾燥地帯。

緑が少なく、殆どが土漠。カスピ海沿岸とその他一部の地域のみで雨が降る。

赴任していたバムは年間 3、4 日しか雨が降らない。

夏の気温が 50 度あり、日陰でも熱風。

夏は午前 6 時頃から仕事をし、昼間は仕事できない。

その為、昼寝文化がある。昼寝をした方が効率がよい。

6. イランの宗教

宗教はイスラム教シーア派が国教。

シーア派はイスラム教の中では少数派でイスラム教全体の約 10%。

主流派はスンニ派。

イランの最高指導者は宗教指導者であり、その下に司法、立法、行政がある。

7. イランの地震の歴史

1962年～2003年の約40年間に1万人以上が犠牲となる大地震が5回発生。

8. イラン南東部（バム）地震

2003年にイラン南東部のバムでマグニチュード6.5の地震が発生。

死者4万人以上、建物の約80%が倒壊しており、
マグニチュードだけで、地震の規模は正確には測れないが、
日本で発生する地震被害と比較すると甚大。

9. 緊急支援活動

被災地であるバムでは冬は0°C近くになる。

被災者ではない貧困者が支援物資をトラックから奪ってしまうため、
被災当初は支援物資が被災者に届かなかった。

被災者に直接届くように赤新月社（イスラム世界における赤十字）と地元政府と国際
NGOが協力して物資配布を行なった。

被災者かどうかを判断するため、言葉の訛りを聞き分けるなどをしていった。

国際NGOは地元政府と協力し、約2000人分の被災者用テントキャンプ500張を設置。
キャンプ内での物資配布の際、各国際NGO間の協力体制ができていた。
毎朝、打合せを行ない、各団体が持っていた物資の種類と量、さらに予算などの情報を
共有し、被災者のニーズにあった物資を必要量だけ供給することができた。

必要な支援物資は、最初は毛布、テント等、一週間経つと下着、衛生用品など日々変化
した。

効率の良い物資配布のためには、被災者に直接届けることができる体制を取ることが重
要。

イランでは、親戚同士の絆が強く、被災者用テントキャンプでも多くの人たちが親戚同
士近くに住んでいた。

多くのイラン人は、あまり他人を信用しない傾向がある。

そのため、ある地方では、親戚同士の結婚が多い。

また、イラン人女性が考える結婚相手に求める条件の一つに、相手の家族との相性があ
る。

さらに、地方によっては、子供たちの結婚相手を父親同士で決めてしまうこともある。

地方によっては、15 歳くらいで結婚。それに反して、都市部では自由恋愛が増えてきている。

10. 学校への被害

学校の被害も大きく、

被災地の約 90%を占める 131 校が倒壊した。

先生も約 1,000 人が亡くなった（ただし、地震発生は早朝なので、亡くなった場所は学校ではない）。

学校生活は完全にストップした。

多くの女の子は学校へ行くときしか、外出できなかった。

そのため、友達に会えず、現状に悲観し、自殺する人もいた。

そのため、子供たちに早急に学校生活を与える必要があった。そこで、仮設校舎の建設が行われた。

11. イランの教育システム

学制は小学 5 年、中学 3 年、高校 3 年、大学準備過程 1 年、大学 4 年。

このシステムは、日本の教育制度を参考にしたと言われている。

日本のセンター試験と同様の大学試験（コンクール）もある。

女性の大学進学率は高く、増加していつている。大学に進学する男女比は、約 35% : 約 65%。

コンクールで高い点数を取った人から大学・学部を選ぶことができる。

小中高は男女別で校舎を分けたり、時間で分けたりしている。

大学は共学。

ノートを取る習慣がなく、暗記は得意。

若いうちはいいが、年をとると覚えられなくなる場所が弊害。

ノートをとる習慣をつけさせたが、書いた場所を忘れてしまう。

ダブルブッキングも頻繁にある。

多くのイラン人＝快樂主義＝今が辛ければ、将来のためでもやらない傾向がある。

「明日できることは今日しない」など

イラン人は「インシャアラ（神が望むなら・・・）」とよく言う。

そもその意味は「人事を尽くして天命を待つ」という意味だが、

多くのイラン人は、言い訳をするときに使ってしまうことが多い。

Q: 「女性の自由はあるか？」

A: イラン革命の後、政府が行なった男女隔離政策により、

女性を診察する女医が必要になるなど（男性の医師は女性を診察できない）、

逆に女性の就職口が増えた。

都市では結婚相手を見つけるために進学する女性も多い。

相手に求める条件は3経済力、2家族、1麻薬をやっていないこと。

働かなくなるリスクが高いため、麻薬は深刻に考えられている。

Q: 「イランの家賃相場は？」

A: テヘランでは家賃が上昇している。

2005年の時点で、70平方メートルのアパートの家賃は、約6万円/月。

核家族化が進んでいる。

Q: 「平均月収は？」

A: 平均月収公務員5、6万円

スタッフは8、9万

エンジニアは10万

副業を行っている人が多い。例えば建設コンサルをしながら大学で教鞭をとるなど。

インフレ率は年率20%。

ちなみに・・・。

イスラムでは犬は不浄な動物であり、ペットにしない人が多い。

インドネシアの敬虔なイスラム教徒もやはり犬を触らない。

1 2. イランの建物の構造

構造はレンガ造、鉄骨構造（鉄骨を組んだ間にレンガを積む）、鉄筋コンクリート構造（鉄筋コンクリートの柱の間にレンガを積む）

1 3. 地震による建物への被害

手抜き工事が横行しており、レンガの積み方も良くない。

鉄骨を組んだものも、組み方、溶接がいい加減だから、倒壊してしまう。

日本の建築基準法に相当する法律はあるが、施工管理ができていない。

1 4. 住宅財団による住宅再建のための政策

「住民に住宅再建費用の支援をし、耐震性の高い住宅が再建される環境を作る」ことを目的とし、以下の施策が実施された。

- ・住宅建設資金提供・補助金と低金利融資で住宅建設費用の50～100%の資金を提供。建設費用は1平米あたり約2万円（2004年時点）。
- 融資金額、約40万円。

ローン金利は通常なら 25%のところ、5%で約 60 万円を融資。

→ほとんどの被災者が制度を使った。

資金提供を受けるには、住宅の図面が承認される必要があり、

施工中も住宅財団から派遣された建設スーパーバイザーのチェックを受ける。

資金は段階的に支給していくため、資金使途も限定された。

評価の高い制度。

1 4 - 1. 問題点

建設スーパーバイザーの能力不足、人手不足があり、建設物件の評価も交渉に左右された。

耐震建設を行なう技術者のスキル不足。

発注者も手抜き建築に無頓着。

1 5. イランで実施した震災後復興支援事業

上記問題の対策として震災後復興支援事業 5 つを実施した。

1. 住民向け防災セミナー開催

2. 防災教育ビデオ制作

3. 建築職人トレーニング実施

4. 技術専門学校建築コースへの耐震技術教育の為にカリキュラム導入

5. 学校の耐震補強工事実施

1 5 - 1. 支援事業の実際

1につき。500 世帯に案内を出したが、10%もセミナー参加しなかった。

3につき。修了書を発行し、トレーニングを受講することで、その後の就職に有利になるようにした。

若い人に技術を教えるのが重要。

イランは職業を世襲することが多く、何もしないと古い技術が受け継がれてしまう。

4につき。耐震技術を理解している建築士は大学の建築学科を出ており地位は高い。

しかし、建設現場に行かないため、理論が現場で活かされていない。

現場にいる技術専門学校卒業生に教えることが重要。

1 6. イランでの今後の計画

イランに、ローカル NPO を設立し、技術専門学校卒業生が技術を学ぶ場を提供。

カスピ海沿岸で建設スーパーバイザー育成事業計画中。

最後に・・・。

17. イラン情勢

大規模な学生デモが起こったり、
大統領選挙の際にテレビ討論会が初めて行われた。

●質疑応答

Q: 「NGO の活動資金はどこから提供されているか？」

A: 持ち出し、外務省、兵庫県、ジャパンプラットフォーム等。

Q: 「ファンドレイジングはどなたが行っているのか？」

A: 大久保さん自身で行っている。

近々の目標は内部監査を導入、ユナイテッドピープル加盟、本の執筆、講演活動。

NGO 以外に貿易会社である株式会社ヴィタリテを経営し、インターネット販売サイト（ナチュレペルシャ）を運営するなど、イランと日本の間で輸出入を行っている。

取扱品目は建機部品、自動車関連部品、中古のゴムチューブ、ドライフルーツ等。

Q: 「日本のゼネコンとは協力しないのか？」

A: 日本では、レンガ造で建物を建設することができない。

レンガ造の研究は、ほとんどされていない。

文化によって建築様式が異なる為、日本の技術をそのままイランへ移転させることは難しい。

Q: 「イランはレンガしか使えないのか？」

A: 安価であり、ほとんどの市場で簡単に手に入るため、レンガが使われている。

Q: 「レンガは耐震構造に適するか？」

A: レンガを水に浸してから積んだり、

鉄筋をつなぐなど、基本的なことができれば、地震が起きて逃げる時間もないぐらいに脆く倒壊することはない。

Q: 「違法建築等の責任の所在は明確にならないのか？」

A: みんなが大雑把であり、問題にならない。

納期も守らない。早くすると忙しくなるから、ゆっくりする。

多くのイラン人は今、楽なほうを選ぶ傾向がある。

重要なことは住民の防災意識を高めること。職人の意識を高めること。
住民が最低限の知識をつけ、たまに建設現場を見に行くだけでも変えられる。

Q: 「政府と一緒に事業を行わないのか？」

A: 建設スーパーバイザーの育成等は政府と一緒に実施する。
ルールが属人的だから、事業を継続するのが難しい。
担当者が変わるとそれまでのルールも変わることがある。

Q: 「危険な動物はいるか？」

A: 地方によるが、蛇や蜘蛛は危険。乾燥しているから、熱帯の病気はない。

Q: 「お風呂にはどのくらいの間隔で入るか？」

A: 週末のみしか入らない人が多い。

Q: 「周辺国とは仲が悪いか？」

A: 仲はあまり良くない。多くのイラン人は周辺国の人々のことを蔑む傾向がある。
アフガニスタン、インド、トルコ等を自分の国より下に見ている人もいる。

Q: 「イランの人口は？」

A: テヘランに約 1500 万人、イラン全体では約 7000 万人。

Q: 「企業経営はどのように行っているか？」

A: 一族で経営していることが多い。
家族・親戚は心から信じている。毎週、家族・親戚と食事会を行っている。
一方で、家族・親戚とトラブルとなると泥沼化し骨肉の争いになる。

Q: 「防災マニュアルを一族のリーダーに配ればよいのではないか？」

A: 一案です。ただし、リーダーが古い知識を固守する場合もある。

Q: 「中国に対する感情は？」

A: 下には見てないが嫌いと思っている場合が多い。
中華思想的なところがイラン人と似てるからか？
中国との貿易多い。

日本人に対して、好意的なイラン人が多い。

ちなみに、モンゴル帝国に侵略された過去があるため、モンゴル人は嫌い。
同じくアレクサンダー大王も嫌い。

最後に・・・。

Q: 「イラン、イラン人のいいところはどこか？」

A: 一般人の多くは、大雑把なところがあるが、エリートは優秀。

建築の公式がすべて頭に入っていたり、
人をどんどん紹介してくれたりするところは素晴らしい。

また、一般的に楽観的な人が多く、自殺率も少ない。

WHO の自殺率調査では、日本は 7 番目に自殺率が高いが、
イランは 92 番目と低い。

野菜は曲がっているのが普通、物は壊れるのが当たり前という感覚を持っている。

日本人と比べて余裕、ゆとりがある。

子どものしつけ、教育は家族・親戚で助け合うなど、

結びつきの強さも素晴らしい。

子どもの教育の仕方も、いきなり叱らず、本人に気づかせる。

お年寄りを大事にしており、席を絶対譲るところも良い点。

● 当会理事長よりまとめ

日本は、安全・安心に生きて行くための技術、制度、人を世界に提供していく必要がある。

また、NGO 支援のために、日本の中で寄付を根付かせなければならない。税制改革云々ではなく、NGO の活動に容易に触れられるようにすることと、寄付を思い付いた人がネットなどで簡単に行なうことのできる仕組み。